

市町村・地域住民意見聴取、高校生・大学生意見聴取等の 実施結果のポイントについて

<調査目的>

「新たな総合計画」及び「次期北海道創生総合戦略」の検討に当たり、令和5年7月から10月にかけて、北海道の将来やめざす姿、直面する重要課題、各地域の持続的発展に向けた潜在力などについて、様々な世代や地域、職種から幅広く丁寧に道民の意見を把握するため、意見聴取等を実施。

<地域住民>

対 象	各振興局地域の一次産業の従事者・団体、商工会議所・商工会、観光団体、医療・福祉等の役職者、職員、地域づくりを担っている方々 など 101名
方 法	個別訪問による意見聴取

■地域の課題

- ・ 保育、医療・介護、運輸、建設といった業種で人材が不足しており、待機児童の増加、地域医療の維持や介護施設の運営、物流の確保、公共事業の受注などへの影響が懸念される。
- ・ 地域の様々な産業で外国人労働者が就労しているが、言語の問題などで意思疎通が難しい場合もあることから、外国人の就労にあたり行政の支援が必要である。
- ・ 若年層の定着のためには、この地域で働いても良いと考える職種や職場環境が不可欠であり、地元の企業が元気でなければ雇用が生まれず、地域に人が残らない。
- ・ 人口が減少していく中では、広域的な視点から、都市機能と農山村地域など機能分担が必要である。
- ・ 地域の高齢者にとっては、バス等の公共交通機関の利便性の確保が不可欠である。
- ・ 災害時の避難について、高齢者など要支援者が増加し、車での避難が中心となるため、避難路の整備が必要である。また、大地震の発生リスクや大雨の頻度増加といった危機意識を住民にどう啓発し、災害発生時の迅速な避難につなげるかが課題である。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 北海道は大規模農業により効率的に営農を進めており、高品質な米の産地であることから、日本の食料庫として、国の食料自給率の向上に貢献できる。
- ・ 北海道の「食」は国内のみならず地産地消を好む海外からも人気があるほか、地域では消費者と生産者との距離が近い点で魅力である。

- ・ 広大で豊かな自然があることが北海道の魅力であり、地域財産として守り続けるとともに、こうした魅力を発信し良さを受け入れる方に来ていただく取組を進めたい。
- ・ 伸び伸びと生活できる環境で前向きな子どもに成長するといった「人間力の向上」が地方で子どもを教育するメリットと考える。
- ・ 住民にとって風が強いのは悩みの一つだが、その風は再生可能エネルギーを生み出す地域資源として大きなポテンシャルを秘めている。
- ・ ラピダスが千歳に進出し、新たな産業として半導体産業が地域産業へどのように波及するか、その効果を期待している。
- ・ 新幹線の札幌延伸により道外からの人の流れが変わるとともに、道内移動の利便性も高まることから、新たな需要に繋がることを期待している。

<市町村>

対 象	179市町村（うち職員による直接聴取、31市町村）
方 法	個別訪問及び地域づくり連携会議による意見聴取

■地域の課題

- ・ 地球温暖化の影響により、主力魚種の漁獲量が減少し、地域の基幹産業である漁業の衰退が懸念される。
- ・ 送電容量が不足し余剰電力を送電できないため、新たな発電施設を設置できないなど、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かし切れていない。
- ・ 様々な業種で人手不足が深刻であり、特に医療・介護、運輸、建設、農林水産業の担い手などが不足している状況にある。建設業はラピダスの工場建設などに伴い人材の道央圏への流出も起きている。
- ・ 人手不足にある地域産業を支えるためにも外国人材の受け入れが必要であり、外国人が安心・安全に暮らせる多文化共生社会の構築に向けた取組が必要である。
- ・ 路線バスの利用者減少による路線の廃止やタクシーの不足などにより、地域住民の足の確保に支障を来す恐れがあるほか、自治体による路線バスの運行赤字の補填の負担も増加しており、この先の維持について不安がある。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 北海道の各地域の豊かな自然や景観は観光の観点からも大きな価値があり、サイクルツーリズムなどでの活用に期待している。

- ・洋上風力発電の有望区域として、カーボンニュートラルの実現に向け管内全体で取組を進めたいと考えており、港湾の活用や発電機のメンテナンスなど、地域振興への効果波及に期待している。
- ・再生可能エネルギーのポテンシャルを活かした電気の「地産地活」の取組を推進し、企業集積に向けた取組などを進める。
- ・ラピダスの千歳進出を契機とした半導体産業の振興などにより、市内企業の取引・雇用拡大のほか、道内高専の卒業生などが地元でチャレンジできる環境が整備されることを期待している。
- ・人口減少下でも年齢構成バランスがとれていれば地域の維持活性化は可能であり、基幹産業を活性化させ雇用の場を作り、子どもを地域に根付かせる仕組みの構築を進めたい。
- ・エゾシカを主原料とした健康食品の研究製造拠点の整備をきっかけに、北海道が抱える有害鳥獣の問題を地方から稼ぐ力に変えるチャレンジをしていきたい。

<高校生・大学生>

対 象	道内の高校生及び大学生 1,309名 (35校)
方 法	学校訪問によるアンケート調査 ※グループディスカッションと併せて実施
回答数	1,309名 (高校：1,106人 (27校) 大学：203人 (8校)) (公立高校：各振興局 1～2校 (23校) 私立高校：石狩管内 4校 (4校) 大 学：6連携地域 1～2校 (8校))

■地域で重要と思うこと

質問： 今、学び、暮らしている地域で重要だと思うことについて

【高校】回答が多い項目

- ①交通・道路 14.0% ②地域社会・経済（賑わいや買い物環境）13.8%
 ③くらし全般（住環境等）12.7% ④医療 9.7% ⑤仕事 9.5%

【大学】回答が多い項目

- ①くらし全般（住環境等）16.4% ②交通・道路 15.5%
 ③地域社会・経済（賑わいや買い物環境）14.8% ④安全 10.2%
 ⑤医療 7.9%

<グループディスカッションでの主な意見>

- ・公共交通機関の運行が少なく不便である
- ・高等教育機関や学習塾がないなど、教育格差がある
- ・就職先がないため、若年層が都市部へ流出している

■北海道の優れているところ

質問：北海道の良いところ・優れているところ・価値（将来に引き継いでいくべきもの）だと思うことについて

【高校】回答が多い項目

- ①広大な土地 20.3% ②食料供給力 19.0% ③自然環境 18.7%
④冷涼な気候 14.0% ⑤歴史・文化 9.6%

【大学】回答が多い項目

- ①食料供給力 20.3% ②広大な土地 18.3% ③自然環境 16.8%
④冷涼な気候 13.1% ⑤歴史・文化 7.6%

<グループディスカッションでの主な意見>

- ・北海道は日本の食料庫であり、ブランド力もある
- ・広大な土地を活かした企業誘致を進められる
- ・優れた自然環境など、日本の他の地域にはない観光資源を持っている

市町村・地域住民意見聴取結果の概要

意見聴取の概要

方 法：道職員訪問による意見聴取（期間：令和5年(2023年)7～10月）

対 象：各振興局地域の一次産業の従事者・団体、商工会議所・商工会、観光団体、
医療・介護福祉等の役職者、職員、地域づくりを担っている方々 など

空知

〈地域住民〉

■地域の課題

- ・ 地域農業における女性活躍の場の拡大が必要である。
- ・ 地元では20年後に人口は半分になると予測され、都市部の工場では他業種と競合し、人材の確保が難しいことから、会社を継続できる人材が確保できるか不安である。
- ・ 看護師不足が深刻であり、看護体制維持のため病棟を閉鎖する診療科が生じている。
- ・ 道が設定する連携地域と実際の生活圏が一致していない状況であり、新しい生活圏や振興局を越えた単位で様々なビジョンを考える必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 外国人は北海道の食べ物、特に刺身や寿司が魅力的という声が多いことから、生食ができない国に向け、北海道として食の安全性をもっとPRするとよい。
- ・ 環境に配慮した取組を評価され、世界的企業からの受注を相次いで受けることができたことから、ゼロカーボン推進は木材産業にとって追い風であると感じている。
- ・ 地域が価値と思えるものを育てることが大事であり、地域への誇りと愛着があれば解決できることも多いことから、シビックプライドも重要である。

〈市町村〉

■地域の課題

- ・ 地域おこし協力隊の応募がない状況が続いており、受入れのためより魅力のある環境を作るなどして、今後も活用していきたい。
- ・ コロナ禍の影響で米の定期便を選択するリピーターの増が寄付額の増加につながったが、外出機会が増える中で、これまでの寄付額が維持できるか危惧している。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 地域おこし協力隊は関係人口の創出につながるなど、良い制度であると認識しており、この制度を活用して移住定住者の増加につなげていきたい。
- ・ ふるさと納税に力を入れており、ものづくりの町の強みを活かした返礼品を揃えPRした結果、件数、金額とも伸びており、特にリピーターの力が大きいと考えている。

石狩

〈地域住民〉

■地域の課題

- ゼロカーボン北海道の実現に向け、個人の努力では対応できず道にしかできないこともあるので、道には実現に向けた仕組みづくりと地域・団体支援に取り組んでもらいたい。
- 勤務シフトがあるため家庭と仕事の両立が負担となる、職員自身の子どもは勤務先の園に預けられないなどの理由から保育職員の離職が続き、保育士の不足につながっている。
- 冬の災害発生時に暖がとれることなど、災害時に設備が整った避難場所の確保や、海が近いため津波発生時に高齢者を車で避難させる仕組みが必要である。

■地域の強み・今後の方向性

- 北海道は他の都府県にない大規模農業によって効率的に農業を進めており、日本の食料庫として機能を発揮することができる。
- 農業体験などを通じ農業の喜びや魅力を伝えることにより、農業に興味を持つ人の増加が期待できる。
- NPOはそれぞれの活動を通じ行政やビジネスで解決できない小さな問題を解決しており、人口減少、少子高齢化が進む社会の中で益々重要になっている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 食料安全保障の観点から基幹産業である農業の振興、農業の担い手確保が重要であることから、若者が農業に参加しやすい体制づくりが課題である。
- 市内人口の1割を大学生が占める特性を活かし、地域イベントを通じ学生と住民との交流が行われているが、若者の地元定着の直接的な効果が形として見えていない。
- 北海道が持つ資源を活かし、新たな人の流れを取り込む観光地域づくりが重要であり、そのためにも交通インフラの整備や国土強靱化の取組を推進する必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 再生可能エネルギーのポテンシャルを活かし、地域で作る電気を事業者に供給する「地産地活」の取組を推進し、企業集積による脱炭素社会の実現に向け取組を加速させる。
- ラピダス社立地の影響として、新たなサプライチェーンの構築や市内企業の取引・雇用機会の拡大、オフィス需要の高まりなど多岐にわたり、官民連携の取組を進める必要がある。
- 地域課題解決に寄与することを目的に、市内の大学に「地域創造研究センター」が設立されたところであり、地域資源を活かした政策提案などを期待している。

後志

〈地域住民〉

■地域の課題

- 観光は地域が生き抜くポテンシャルであり、インバウンドの増加やアドベンチャートラベルなど体験型の新しい魅力づくりを進める必要がある。
- 欧米では有料のガイドを使う習慣があるが、日本人はお金を払ってガイドを依頼する習慣がないことから、ガイドの料金設定が低く、専門とすることが難しい。
- 人手不足の中、外国人に頼る前に、移住者や引退した高齢者など、まずは国内、地元で様々な人材活用に取り組むべきである。

■地域の強み・今後の方向性

- 後志地域はワイン用ブドウ栽培などに新規参入しやすい環境が整っており、参入に当たりしつかり知識習得し、参入者同士のつながりも深いなど、活気を感じる。
- 外国人は「地産地消」を好むことから、農産物も海産物もある後志各地域の産品をニセコに集め、後志全域の利益となることを目指している。
- 厳しい自然の中で知恵や工夫で独自の文化を築いてきた素晴らしさ、空港や大都市圏からのアクセス、一次産業基盤などのポテンシャルを活かした地域づくりを行えるとよい。
- 新幹線の札幌開通で人の流れが大きく変わると考えており、軽井沢などに行っている観光客が後志に来ることを期待している。

〈市町村〉

■地域の課題

- ゼロカーボンの推進に向け、住民一人ひとりのライフスタイルの変革が重要であることから、行政だけではなく地域の合意形成のもと、地域が一体となって取り組む必要がある。
- 2024年度からの働き方改革の影響で、物流などに影響が出ることを危惧している。
- ニセコエリアでのタクシー不足が慢性化し、地域住民の足の確保に支障が出ている。

■地域の強み・今後の方向性

- ウニ養殖で餌となる昆布を、廃棄物として処理されていたウニ殻を原料とした肥料で養育できることがわかり、循環型の再生産システムとしての活用を検討している。
- ゼロカーボンに向けては、CO₂排出量など見える化した上で、住民自らがどのように取り組む必要があるのかを行政と住民と一緒に考えながら取組を進めることとしている。
- 住民が住宅リフォームに合わせ太陽光パネルや再エネ設備を設置する場合に補助を行うほか、移住者が取得した住宅がZEHに該当する場合に助成を行うなどの取組を実施している。

胆振

〈地域住民〉

■地域の課題

- ・ 漁業をはじめ様々な産業で外国人労働者を採用しており、日本人以上にコストがかかるとしても外国人労働者に頼らないと産業が維持できない状況である。
- ・ 生活に余裕があると苫小牧から札幌に通う人が多いが、地元で十分な教育を受けられないことは課題である。
- ・ 介護事業では生産人口の減少により労働者不足や事業者の統廃合・廃業が進むと考えられることから、今後、事業の安定と雇用としての魅力度を上げることが課題である。
- ・ 北海道は女性の正規雇用の割合が低い点で経済的な損失が大きいと考えており、様々な人材が生きがいを持って働ける場を提供するためにも、子育てや教育環境の整備は重要。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 地域の強みは「食」が圧倒的であり、東京のシェフが食材の豊かに感動していたほど。このほか、火山を含めた自然が素晴らしい。
- ・ 脱炭素を教育旅行の体験メニューに取り込むことで観光につながる可能性がある。
- ・ ラピダスの千歳進出に関し、半導体産業は地元になじみのない産業なので影響を注視するとともに、地域への波及効果を期待している。
- ・ 持続可能な地域づくりのため、町の資源を活用し、加工などを地域で取り込み、価値を生み出す場をつくることにより、住民がいい町だと思える取組を進めたい。

〈市町村〉

■地域の課題

- ・ 炭鉄港をテーマとする、あるいはゼロカーボンの取組などを教育内容に入れ込み、胆振管内を周遊できるような取組についても道の協力をお願いしたい。
- ・ 広域での観光振興について、発信力の点では市町村単体で発信するのと北海道として発信するのでは違うので、北海道の助力をお願いしたい。
- ・ 有珠山を抱えていることから、各地域で災害に対する体制整備を進めるとともに、北海道や気象台など関係機関、市町村間の広域的な連携強化が必要である。
- ・ ウポポイについては、アイヌ文化発信の拠点としてより多くの方に来訪していただけるよう、管内自治体とも緊密に連携し、政府目標の達成に向け取組を進める。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 環境制御型農業の実践などにより農業によるカーボンニュートラルの実現を目指した取組を進めており、農業の様々な形を地域から発信できることを期待している。
- ・ ラピダスの千歳進出を契機に、観光や食材提供などの視点で関われる可能性がある。
- ・ ラピダスの千歳進出を契機とした半導体産業の振興やデータセンターの誘致などのチャンスを捉え、道内高専の卒業生が地元でチャレンジできることを期待している。
- ・ ラピダスの千歳進出を見据え、道路や居住環境の整備に加え、北海道の住みやすさや子育て環境の良さなどのPRといったソフト対策にも早期に取りかかるべきである。

日高

〈地域住民〉

■地域の課題

- ジオパークは世界遺産のような知名度がなく観光振興や地域振興に生かし切れていないため、ジオパークの認知度を高める必要がある。
- 千歳市へのラピダス進出により地域の技術者が流出しており、管内建設業では今後、人件費の上昇と人手不足が生じ仕事を受注できない恐れもある。
- 地域の軽種馬関連業では外国人が就労しているが、英語での意思疎通が難しいなど言語の問題を抱えていることから、外国人の就労にあたり、行政の支援が必要。

■地域の強み・今後の方向性

- 3Kと言われる建設業のイメージを払拭し、特に女性職員の採用を積極的に進めたいと考え、労働環境を含め女性が働きやすくなるよう配慮し、女性職員採用につながった。
- スマホゲームの効果で競馬ファンに加えゲームのファンも訪れるようになったほか、過去の名馬が再び注目されており、こうした地域資源の掘り起こしに期待している。
- 人手不足の克服のためDX化を進め、外国語対応や人の出入りの分析、避難所の掲載などをデジタルマップ上で行っており、今後はAIアバターでの観光案内も実施したい。

〈市町村〉

■地域の課題

- 地域の発展に欠かせない一次産業の後継者や継承者の確保のため、家業を継ぎやすい環境づくりに加え、第三者でもスムーズに産業を継承できる環境の整備が重要である。
- 仕事がないから札幌へ行くという話をよく聞くが、漁業や建築業などで人材不足が生じるなど地元には仕事はあることから、求職と求人とのマッチングがうまくいっていない。
- 地震による津波発生、大雨や越波により国道の通行止めが発生し、地域住民や観光客などへの影響が懸念されることから、防災・減災対応に向けた道の協力をお願いしたい。
- 様々なインフラ整備・改修は重要な課題であり、そうした事業に必要な役所や民間の技術者が不足している問題は、地域だけでなく北海道全体で対応策を考える必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- アポイ岳は自然や学術的価値など、地域にとっての大きな強みであり、観光振興や教育活動に活用し、外貨獲得につなげていきたい。
- 日高山脈襟裳国定公園の国立公園化は地域振興のチャンスであり、外部からの人の流れを作る方策を検討している。

渡島

〈地域住民〉

■地域の課題

- 若年層の定着のため、この地域で働いても良いと考える職種や職場環境が不可欠であり、地元の企業が元気でなければ雇用が生まれず、雇用が生まれない地域に人は残らない。
- 地域の学校が介護の専門課程を廃止していることから、民間だけではなく、行政として地域福祉を担う人材を育成することが必要である。
- 大雨の頻度増加など北海道の気候が変化中、住民の危機意識をどう向上させるかが課題である。
- 交流人口の増加により経済効果が生まれることを期待しており、災害に強い道路や通信環境の整備、交通手段の確保などのインフラ整備をお願いしたい。

■地域の強み・今後の方向性

- 湯の川温泉は空港や新幹線からレンタカーやタクシーを利用したアクセスなど、全国的にみても立地が良いことから、この強みを観光振興に活かしていきたい。
- 新幹線開通後の新幹線利用客を取りこぼさず、取り込むことが重要である。
- 新幹線の札幌延伸により道内移動の利便性が高まり、新たな需要につながることを期待している。
- 地元の大学生と町と関わりが増え、学生が地元の祭りを手伝ってくれるなど、若い学生の活動により活気が生まれており、地域としても大変有難く感じている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 今後10年間で人材の確保や育成が課題となることから、地域で将来を見据えた計画的な人材育成とまちづくり、チャンスを活かした施策が必要である。
- 道南を今以上に一つにするため、道南地域の市民・町民に道南のメンバーの一人なのだという意識を持ってもらうことが必要であり、道南地域を大切に思い守る人材を道南全体で育成することができないか。

■地域の強み・今後の方向性

- 道南地域はワイン産地に加え海産物や農産物も豊富であるため、ワイナリーを巡る旅行商品の開発やイベントの開催などを通じ、道南全体の関係・交流人口の拡大を図ることができる。
- 新幹線札幌開業を見据え、観光の取組を進めるべきと考えている。

檜山

〈地域住民〉

■地域の課題

- 地域に多様性が求められており、ジェンダーの意識が低い地域は若者から見捨てられていくことになる。多様性の考え方は教育を通じ子ども達に教えていかなければならない。
- 移住を検討する際、地域に状態の良い住居が無いことが課題であり、移住者向けの住宅整備に対し公共で支援する制度があると良い。
- 地域の高齢者の方にとってはバス等の公共交通機関の利便性の確保が不可欠である。

■地域の強み・今後の方向性

- 北海道は生産者との距離が近いことが魅力であり、食に関わる方も意識が高く、食育に関し豊かな環境であることから、廃棄される未利用食材の活用なども考えていけると良い。
- 地場産品を生産者と直接接しながら食べられることや、産地での体験ができるといった魅力を活かすことで安定した観光につながる。
- 地域で店先などでのひな人形の展示や花嫁行列といった個性的なイベントを行っており、ツアー旅行や外国人の来訪など、関係人口の増加や誘客につながっている。
- 新幹線は航空機と比べ環境にやさしく移動のストレスも低いことから、今後、北海道新幹線の価値は高まると考えている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 各町で町立病院を抱えることは非効率であるため自治体病院の統合を検討する必要があるがなかなか進まない。道立病院を中心としたネットワーク構築や、地域医療確保に向けた自治体間の連携を進める必要がある。
- 地域交通はデマンド化を進めており、路線バスの縮小、タクシー事業者の撤退や業務縮小もある中、高齢者をはじめとした住民生活の維持のため、地域交通の確保は自治体が担う必要がある。離島がある地域として、産業や生活を支えるフェリーの運行に関する支援も重要である。

■地域の強み・今後の方向性

- 檜山沖が洋上風力発電の有望区域とされていることから、カーボンニュートラルの実現に向け管内全体で取組を進めたいと考えており、港湾の活用や発電機のメンテナンスなど、地域振興への効果波及に期待している。
- 北海道新幹線の長万部駅の開業により檜山北部への誘客も期待されることから、渡島北部・檜山北部の自治体が振興局の区域を越えて連携し、地域への誘客の取組を進める必要がある。

上川

〈地域住民〉

■地域の課題

- 個別の市町村やエリア単位ではなく、北海道として一つのパッケージでインバウンド獲得を目指すためには、民間委託した道内7空港や二次交通としての鉄道活用を検討すべき。
- ラピダスの千歳進出により経済活性化に繋がるという期待感もあるが、建設現場の作業員が全道的に不足するなど、地方にとってマイナスの影響が出ないか不安視している。
- 保育士の人材不足が続き、園児の受入体制が整わず待機児童が生じると、子どもの産み控えにもつながる。
- 札幌一極集中是正のため、市町村を越えた圏域ごとの地域振興策を講じる必要があり、各圏域の地域振興を進めるため振興局の裁量を増やすと良いのではないかな。

■地域の強み・今後の方向性

- 旭川家具は一定のブランドを確立しており、小規模な家具工房が旭川市と近隣エリアに点在し、それぞれの個性を放っている。
- 市立の介護施設で外国人実習生を受け入れ、地域で活躍する実習生のモデルケースを作ることにより、地域に馴染む形で外国人実習生の受入増を目指す取組を進めている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 農業が基幹産業であることから農業振興に力を入れることが重要であり、人材育成や行政で対応が難しい部分を民間との連携で補っていく考え。
- 森林資源の活用にあたり、林業振興による森づくりと環境整備、6次産業化や木質バイオマスエネルギーの利用、木材の付加価値を高める製材工場の誘致など、課題は多い。
- 高校と連携し福祉の人材不足解消の取組を行い、地元の就職率アップへ繋がっていることから、人材不足の解消に向け、課題を明確にして解決に向け取り組む必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 人口減少が進む中、交流人口よりも地域住民と関わりのある関係人口をどのように増やすかを考えながら事業を展開することが重要と考えている。
- 地域課題を解決するためには行政だけでは知恵やノウハウなどが不足しており、SDGsの視点も取り入れながら、民間の力も借りて課題を解決することが重要である。
- 町内にエゾシカを主原料とした健康食品の研究製造拠点が整備される予定であり、北海道が抱える有害鳥獣の問題を地方だからこそその稼ぐ力に変える挑戦をしていきたい。

留萌

〈地域住民〉

■地域の課題

- 地域産業を伸ばすには輸出が重要であり、高い冷凍技術や日本食ブームなども利用し、道として食品輸出の取組に力を入れてもらいたい。
- 留萌管内の急性期医療は、医師、看護師をはじめ医療スタッフの不足が厳しい状況で、この先10年どころか5年後でさえ安定的に維持できるか心配している。
- 物流の2024年問題に関し、トラックの長距離輸送の際に交代要員が必要となり、物流が滞る恐れがあることを危惧している。

■地域の強み・今後の方向性

- 移住者やU Iターンで来た方からは、農業でも漁業でも自分が頑張れば稼げる産業は魅力的で、生活も確保されていると聞いている。
- 地域の発展のため従事する産業を伸ばそうとチャレンジをする方が増え、斬新な感覚で磨き上げが進めば、おのずとポテンシャルが上がり、地域のブランド化につながる。
- 北海道でアウトドア熱が高まる中、地域には自然豊かなフィールドがあることから、地域の方々が自然を楽しむ、地域資源が活かされるチャンス到来と考えている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 送電容量が不足し余剰電力を送電できないため、公共施設への電気供給のための風車を設置できないなど、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かし切れていない。
- 人材不足のため農業、介護、宿泊施設など様々な業種で外国人の支えがないと産業が立ち行かないことから、町としても多文化共生に向けた取組に力を入れている。
- 地理的不利なことから町立病院の医師、技術職が確保できず、近隣町で同じ診療科医師を求めている中で、広域的に確保するなど、連携ができないか考えている。
- 路線バスがない地域において町で相乗り交通事業を行っているが、運転手、利用者とも新規の参加がない中、地域公共交通計画の策定にあたり事業の取扱いが課題である。

■地域の強み・今後の方向性

- 留萌管内全体で農水産物のブランド化を進めており、道外への発信にあたり道や振興局の協力をお願いしたい。
- 閉鎖予定だった焼尻島のサフォークを放牧する町営牧場が一転して民間事業者への譲渡に向け調整が進んでおり、地域ブランドへと成長していたことを改めて認識した。
- 利尻富士が見えるなど、管内の景観は地域の財産であり、サイクルツーリズムなどでの活用を期待している。
- 道の総合計画において14振興局の特性をどう捉え、各地域の現状と課題を把握・分析するのか注視している。

宗谷

〈地域住民〉

■地域の課題

- 最近では団体観光客が減少し個人客が上回るが、個人客向けのアクティビティがないので、体験型など個人客を想定した観光にする必要がある。
- 人手不足は地域産業などに大きな影響を与えている中で外国人材の活用は重要であり、外国人が安心・安全に暮らせる共生社会の構築に向けた仕組みづくりが必要である。
- 高い報酬や地域の魅力だけでは地域に医師は定着してもらえないことから、都市部の大病院が地方病院を関連施設に位置づけ、医師を派遣できる仕組みがあればいい。

■地域の強み・今後の方向性

- 利尻のウニの単価は日本でトップレベルのブランドになっており、中国の輸入制限の影響も受けていないことから、漁業従事者は一般的なサラリーマンよりも収入は高い。
- 稚内は風が強いのが悩みだが、一方でその風は再生可能エネルギーを生み出す地域資源として大きなポテンシャルを秘めている。
- 地方で子育てをするメリットとして、のびのびと生活できる環境下で前向きな子どもに成長するといった人間力の向上が挙げられると感じる。

〈市町村〉

■地域の課題

- 労働力不足が島内共通の課題であるが、数年前から水産加工業者に外国人労働者が少しずつ入っており、今後も増えると考えている。
- 外国人材への依存度が大きくなる中で、管内で連携しながら外国人への支援を考える必要がある。
- ラピダスの千歳進出による関連産業の道央圏への一極集中が加速化を懸念しており、地方では建設作業員などが流出し、人手不足が問題となる恐れがある。
- 町内の居住地域の多くが土砂災害警戒区域に指定されており、過去には土砂崩れで犠牲者も出たが、避難指示を出しても住民避難につながらないことが課題である。

■地域の強み・今後の方向性

- 漁業者は近年、ウニやコンブ、ナマコを捕るだけで生活できるほど経営環境が良く、若い漁業者も入ってきている。後継者確保のため漁業権の取得も容易になっている。
- 地域の少子化が進む中、世界的には人口が増加していることから、地域の特産品の輸出や、観光・地場産品の情報発信に取り組むことが重要である。
- 利尻空港と丘珠空港を結ぶ航空便が通年運航され、札幌の病院を受診するのも比較的容易であり、観光客もアクセスしやすいことは利点である。

オホーツク

〈地域住民〉

■地域の課題

- 観光ガイドは地域の魅力を上手く伝えるという、地域からも求められる仕事であり、ガイドだけで生活できるようになればもっと地域に関わることができる。
- 誰もが知らず知らずのうちにゼロカーボンやSDGsの取組を進めているという仕組みを作ることが、ゼロカーボンの目標達成に向け必要である。
- 人口が減少していく中、広域的な視点から、都市機能と農山村地域など機能を分担する必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 一次産品の高付加価値化のため、加工能力、商品企画力と営業力が向上すれば、北海道の食のポテンシャルである原材料を十分活かすことができる。
- コロナ禍を通じた価値観の変化、補助金や空き店舗の活用などの好条件を背景に、マッサージやネイルサロンといった「癒やし」を提供する女性による起業が増えている。
- 世界遺産や国立公園にすぐアクセスでき、北海道らしい広大な自然を身近に感じられることが地域のポテンシャルと考えている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 酪農業は国のクラスター事業により拡大してきたが、資材高騰の影響を強く受けて厳しい状況であり、国内での配合飼料の安定供給を図る必要がある。
- 酪農ヘルパー組合の支援で休暇を取得し、海外旅行に行く若手酪農家もいることから、新規就農者確保にあたり、こうしたPRも行い酪農業のイメージを変える必要がある。
- 産業に外国人労働力は不可欠であり、外国人の文化やコミュニティも尊重する必要があるが、様々な国の外国人が地域におり、町だけで対応するのは難しい。
- 路線バスは地元の高校生の通学の足として無くすことができないが、自治体が行う運行赤字の補填の負担も増加しており、この先の維持について不安を抱えている。

■地域の強み・今後の方向性

- 芝ざくらやハッカなどの地域資源を活かし、香りに特化した観光地づくりを進めており、視覚障がい者を対象としたユニバーサスツーリズムにも取り組んでいる。
- 人口減少下でも年齢構成バランスがとれていれば地域の維持活性化は可能であり、基幹産業を活性化させ雇用場を作り、子どもを地域に根付かせる仕組みの構築を進める考え。
- インターン経験者が友人を連れて地域のイベントを手伝うなどの交流が続いている。地域おこし協力隊として戻る人もおり、こうしたつながりを大切にしたい。

十勝

〈地域住民〉

■地域の課題

- 天候による収穫量への影響が小さくなり農業経営安定につながることから、計画的な基盤整備事業による土地改良は重要である。
- 産婦人科と小児科の医師が足りないため、道外医科大学などとも連携するなど、より積極的な人材確保が必要である。
- 物流の2024年問題として運輸業への影響を懸念しており、長距離輸送となる道東地域では1日で運べる距離が短くなるため、新たな物流拠点の整備などの対応が必要になる。

■地域の強み・今後の方向性

- 全国の食料自給率を引き上げるためには、水稻の栽培を復元する一方、小麦の生産量は維持し輸入量を減らすことが必要であり、北海道は高品質な米産地なので、生産地として国の食料自給率向上に貢献できる。
- ゼロカーボン推進の観点から、放牧の酪農は環境に良いということを知っている方々に知っていただきたい。
- 地元の農業高校と共同で商品開発から販売まで行うプロジェクトを実施したが、このような活動をきっかけに卒業後も町内に定着することを期待している。

〈市町村〉

■地域の課題

- 町立病院の看護師、薬剤師や検査技師の確保が課題となっており、特に薬剤師は町の給与水準では集まらないが、容易に金額を上げることもできず苦慮している。
- 地域公共交通の確保は議会でも議論となっており、デマンド交通などの導入検討が必要。住民からは路線バスだけでは不便という声が寄せられており、高校生の通学の足の確保も含め相対的に検討する必要がある。
- 農畜産物の国内外への確実な供給のため、道路や港、空港、鉄道といった交通網の強化が重要である。
- 熊や鹿など野生動物の出没が増加しているため、道に対策をリードしてもらいたい。

■地域の強み・今後の方向性

- 町内に放牧酪農を営む酪農家があり、飼料高騰や生乳の生産抑制が行われている中でも安定した経営を行っている。
- 林業資源は豊富であり、Jクレジットの活用の可能性など林業のポテンシャルはある。

釧路

〈地域住民〉

■地域の課題

- 若者の就労者が減る中で地元企業が自社の魅力を創出できていない。自社の魅力を経営者だけでなく従業員も語れるなど、人材不足解消には企業側の努力も必要である。
- 学校現場で福祉業務への理解を深め、生徒に福祉・介護業務のやりがいを伝えていただけると、介護人材不足解消の一助になると考えている。
- 地域住民は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生リスクは知っているが、発生した際の対応を理解していないため、災害対策を日常的に啓発する必要がある。
- 物流の2024年問題で、地元の民間業者では運転手の繋ぎができる体制がとれない可能性があり、関東など大量消費地への鮮魚の輸送に支障が出ることを懸念している。

■地域の強み・今後の方向性

- 冬期間の仕事の確保を目的にウニ養殖を始めたが、道外でも高い評価を受け、養殖が年間収入の半分を占めるほどになった。
- 観光客には釧路で涼しい夏を過ごしてもらい、涼しい釧路を推しており、夏場の長期滞在者も増えるなど、涼しい釧路の夏を求めた観光や滞在は着実に伸びている。
- 広大で自然が多いところが好きという理由で地域に住んでいる方は多く、JRが通る地域もあり、多くを望まなければ地域で生活の不便はないところが魅力と感じている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 管内の酪農業、漁業の共通課題は担い手の確保であり、豊かな資源があり高品質なものを出荷できる地域だとしても、後継者がいなければ将来にわたって産業が成り立たない。
- コロナ禍や国際情勢の影響などにより、基幹産業である酪農、畜産業が非常に大きな影響を受けており、資料や肥料などを外国に頼らない地産地消がこれから重要になる。
- 水産業や農業では海外からの実習生、研修生が大きな力となっており、他の業界でも労働力を必要としていることから、海外からの労働者の採用を進めるべきと考える。

■地域の強み・今後の方向性

- 東北北海道の豊かな自然は、観光の観点からも大きな価値があり、サイクルツーリズムも自然に触れる、滞在時間が確保されるという点で観光振興につながる。
- 次世代にこの地域の良さをつないでいくため求められる施策を講ずる必要があるが、市町村単位だけでなく釧路管内が一体となつての政策を展開することも必要である。

根室

〈地域住民〉

■地域の課題

- 中国による日本からの輸入水産物への検査強化によりホタテの輸出に影響が出ている中、他国への販路拡大などで道の役割に期待している。
- 北方領土に隣接しており、ロシアとの関係悪化で安全操業を行えないことで、他国船による操業やロシアトロール船の乱獲など、漁業や地域経済に影響を与えている。
- 災害時の避難は高齢化などにより要支援者が増加し、車での避難が中心となるので、避難路の整備が必要である。
- 物流の2024年問題で、消費地から離れている地域でトラック輸送能力が不足する事態が生じることを強く危惧している。

■地域の強み・今後の方向性

- 酪農業は厳しい状況にあるが、粗飼料を自給できることが地域の強みである。
- 世界的に見ても貴重な財産として日本遺産に登録されている「鮭の聖地」の物語や地域の豊かな自然など、地域財産を守り続けることが必要である。
- 地域のありのままの自然が一番の魅力であり、良さを受け入れていただける方に来てもらえば良いと考えており、こうした魅力を発信し地域を知ってもらう取組を進めたい。

〈市町村〉

■地域の課題

- 漁業が主力産業であるが、漁獲量が減少し主要魚種の秋鮭は右肩下がりとなっており、漁業の不振により人の流出にもつながる。
- 病院の医師、看護師が不足し、定着してもらえない。看護師は独自の奨学金制度を設けているが返済免除期間を経過すると退職してしまう。
- 北方領土の元島民の高齢化が進んでおり、返還運動が薄れてきているが、国際情勢が困難な状況だからこそ、返還要求のための国内啓発の充実が重要と考える。
- ラピダスの千歳進出に伴う工場建設により人材・資材が道央に一極集中し、既に建設人材が不足しており、更に人材が流出すると地域の公共事業にも大きな影響が生じる。

■地域の強み・今後の方向性

- ブリの漁獲が増え、漁業者も船上での生き締めなどの付加価値向上に努めており、調理法のPRなどにより今後の消費拡大を期待している。
- 大規模草地を有しているため飼料は自給でき、資材高騰の影響が少ないことが地域の酪農経営の強みである。
- 根室管内のみならず釧路・オホーツクの隣接町といった広域で相互依存関係にあり、周辺自治体の人口減少が各自自治体の経済にも影響することから、様々な取組を広域的に進める必要がある。
- 町内にIT専門学校が開校する予定であり、地域のデジタル人材の確保や、若者の増加による地域活力の向上に期待している。

高校生・大学生意見聴取結果の概要

1 高校生・大学生グループディスカッションの結果概要

対象	道内の高校生及び大学生 1,309名(35校)
方法	6～7人程度のグループに分かれ、「地域の課題・課題を解決するための取組」「地域の強み・強みを活かした取組」について、議論 ※アンケート調査と併せて実施

■地域の課題等（主なもの）

地域の課題等	課題を解決するための取組
少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援・子育て環境の充実（医療費や教育費の無償化等） 地域の医療福祉提供体制の確保（人材の確保（養成するための体制、勤務環境改善等）、施設の機能分担・運営効率化等）
地域からの人口流出（札幌・首都圏の一極集中等）	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりへの若年層の意見の反映、若年層が集まれる場所の整備（商業施設、娯楽施設等） 進学先の確保、教育格差の解消（高等教育の充実、公営塾等による学力の向上） 雇用の確保（企業誘致、大学の究成果を生かせる・押しできる企業づくり、情報産業の創出等）、所得の向上 住民向けの地域を知る機会の創出、地元への愛着の醸成、住民が主体となった魅力発信 移住施策の推進、リモートワーク環境の整備
商店街の活性化、空き店舗の活用等	<ul style="list-style-type: none"> 起業支援、起業しやすい環境の整備、イベントなどによる賑わいの創出
交通網の整備、公共交通の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> JR北海道への支援（ふるさと納税による財源の確保、除雪対策等）、自動運転化、バス運転手の待遇向上、運行ダイヤの改善等
除雪対策	<ul style="list-style-type: none"> 従事者の待遇改善、財源の確保、住民による実施、ボランティア、除雪機の貸出、除雪に関する技術的支援等
一次産業における生産体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> 就業希望者とのマッチングの仕組みづくり、支援制度の創設 農業における障がい者の雇用、農家の働き方改革の推進（ICT化） 漁獲量制限や栽培・養殖漁業の促進

■地域の強み等（主なもの）

地域の強み等	強みを活かすための取組
豊かな自然、美しい景観	<ul style="list-style-type: none"> ・観光商品の開発（アウトドアアクティビティ、グリーンツーリズム・エコツーリズム等）、イベントの企画、SNS等を活用した積極的な魅力発信 ・観光客だけでなく、地元民も気軽に体験できるような企画の実施、体験のための施設整備（グランピング等） ・移住の促進、リモートワークの環境整備 ・都会の大学生や大人と、地元高校生との交流の場づくり ・再生可能エネルギー（風力発電、太陽光発電、バイオマス等）の活用促進、脱炭素に向けたリーダーシップの発揮 ・「美しい夕日」を活かしたPR
広大な土地	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網の整備 ・アウトドアやウィンタースポーツの体験イベントへの活用や、施設整備、公園の整備 ・企業や研究機関等の誘致、経済特区としての活用
農林水産業・食	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産物のふるさと納税の活用によるPR、インターネット通販による販路拡大やPR、ブランド力向上、6次産業化（規格外品の活用等）、食を活かしたテーマパークの設立 ・体験の場、観光資源としての活用 ・機械化やICT化の推進による生産量、市場の拡大
地域の文化、歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物を活かした地域づくり ・アイヌ文化の理解促進（ウポポイやアニメ等を通じた情報発信） ・地元民による地域の魅力の再認識、発信
住民同士の結びつきの強さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや地域イベント等への交流促進を通じた地域づくり、高齢者の活躍促進
多様性を受け入れる風土	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に向けた環境整備

2 高校生・大学生アンケート調査の結果概要

調査の概要

方法：学校訪問によるアンケート調査 ※グループディスカッションと併せて実施
 (期間：令和5年(2023年)7～10月)

対象：道内の高校生及び大学生

回答数 1,338名

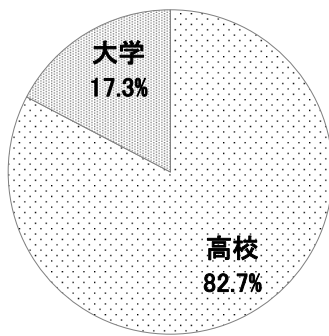
高校：1,106人(公立：各振興局1～2校、計23校、私立：石狩管内4校、27校)

大学：232人(6連携地域1～2校、計9校)

個々の比率(百分率)は、小数第1位ないし第2位を四捨五入しており、各区分の比率合計が100%にならない場合あり

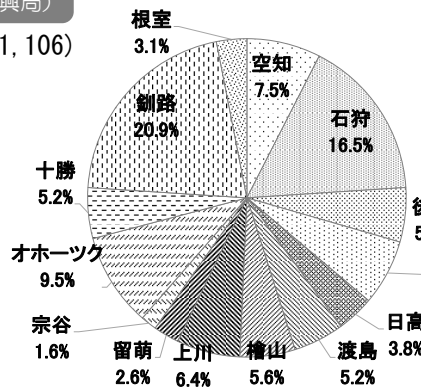
アンケート対象の属性(n=1,309)

対象



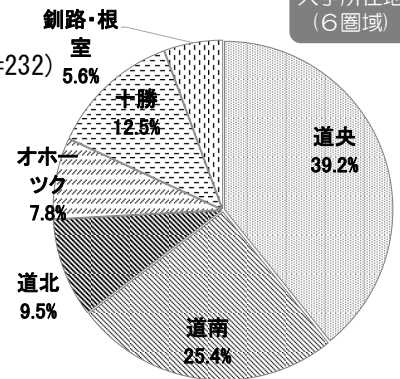
高校所在地
(振興局)

(n=1,106)



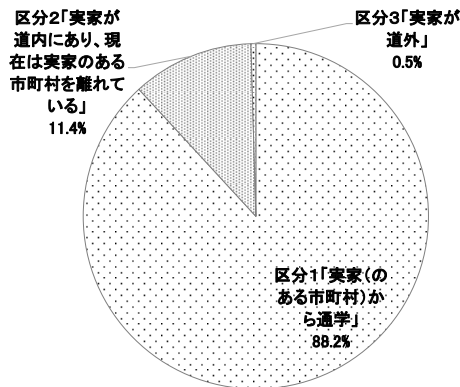
大学所在地
(6圏域)

(n=232)



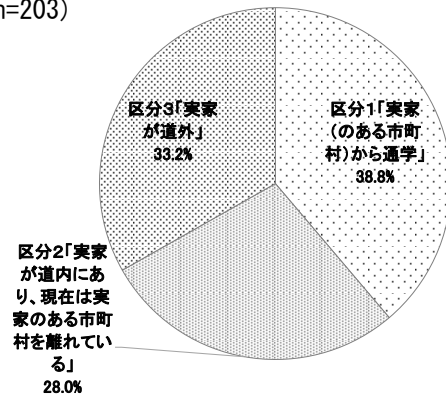
高校生の住所区分

(n=1,106)



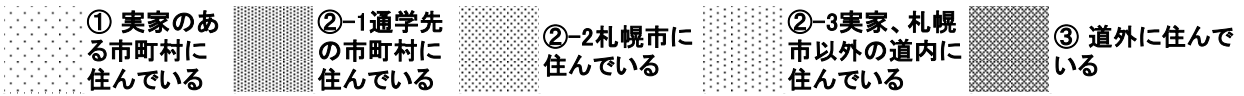
大学生の住所区分

(n=203)



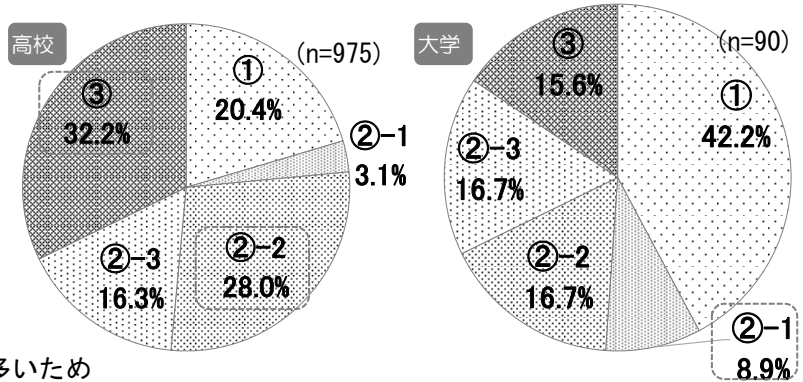
問 1. あなたは、10年後にどこで暮らしていると思いますか。あなたが当てはまる以下の区分から1つ選んで○を付け、その理由を記載してください。(n=1,065)

【区分1「実家（のある市町村）から通学している方」】



■傾向

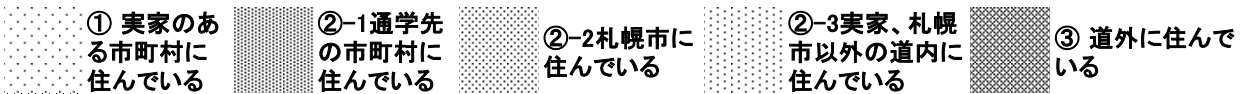
- ・高校生の3割強が「道外に住んでいる」と回答
- ・高校生の3割弱、大学生の2割弱が「札幌市に住んでいる」と回答



■主な理由

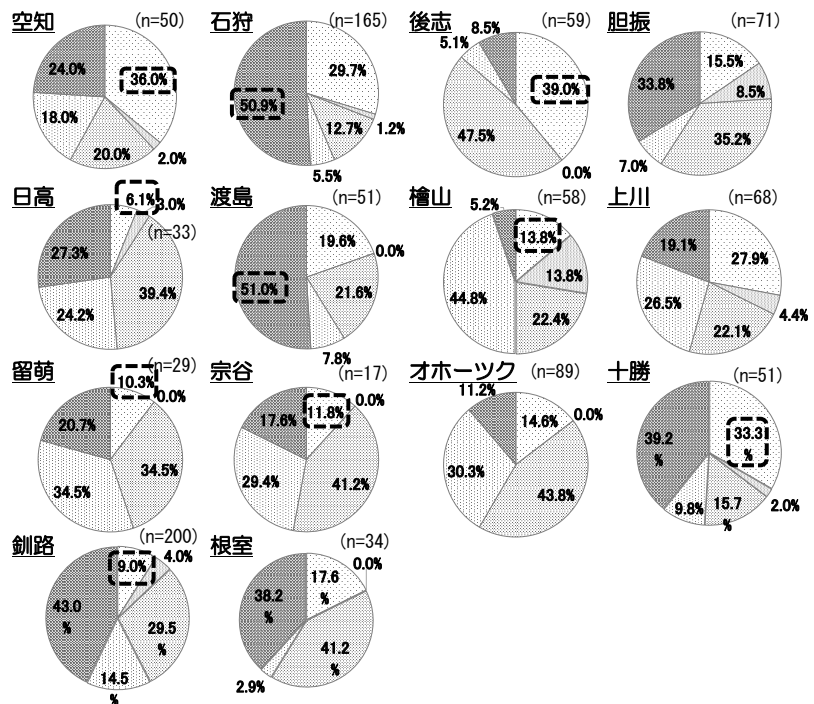
- ・①：地元が好きだから
- ・②-1：地元よりも就職先の選択肢が多いため
- ・②-2：札幌の大学に進学したいと考えているため
- ・②-3：実家の近くで、何かあったら帰ることができる比較的大きな街に就職する予定であるため
- ・③：道外で働くことに憧れがあるため

【区分1「実家（のある市町村）から通学している方」】※高校所在振興局別

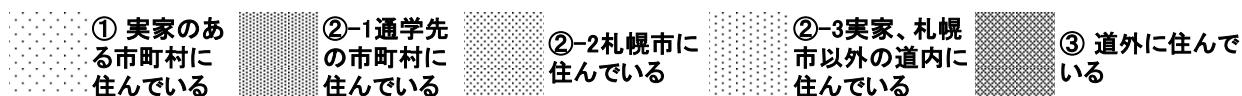


■傾向

- ・石狩、渡島では、5割を超える生徒が「道外に住んでいる」と回答
- ・空知、後志は4割弱、十勝は3割強の生徒が、「実家のある市町村に住んでいる」と回答
- ・日高、檜山、留萌、宗谷、釧路では、1割程度が「実家のある市町村に住んでいる」と回答

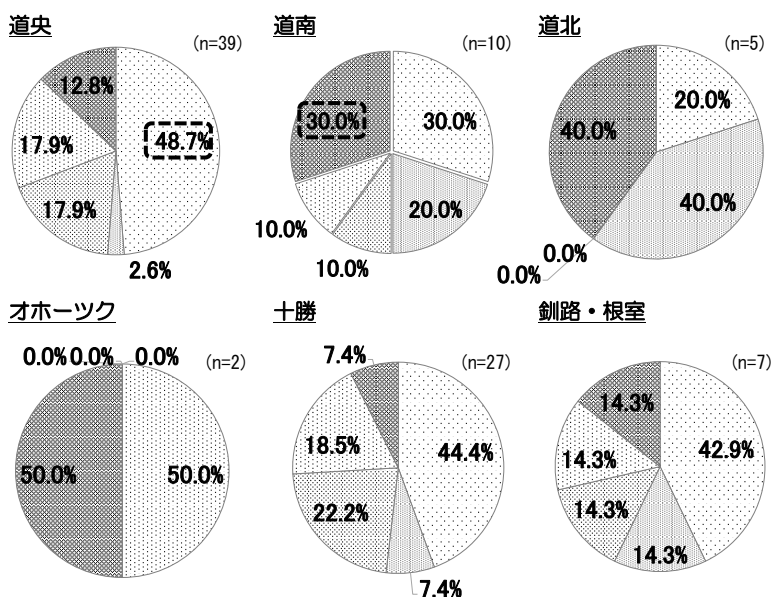


【区分1「実家（のある市町村）から通学している方】※大学所在圏域別

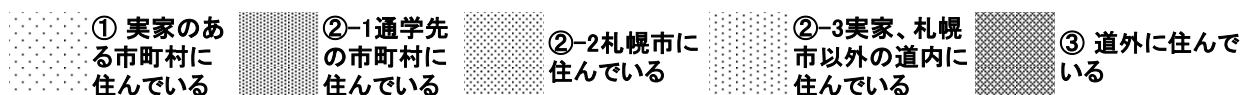


■傾向

- ・道央では、5割弱が「実家のある市町村に住んでいる」と回答
- ・道南では、3割が、「道外に住んでいる」と回答



区分2「実家が道内にあり、現在は実家のある市町村を離れている方」

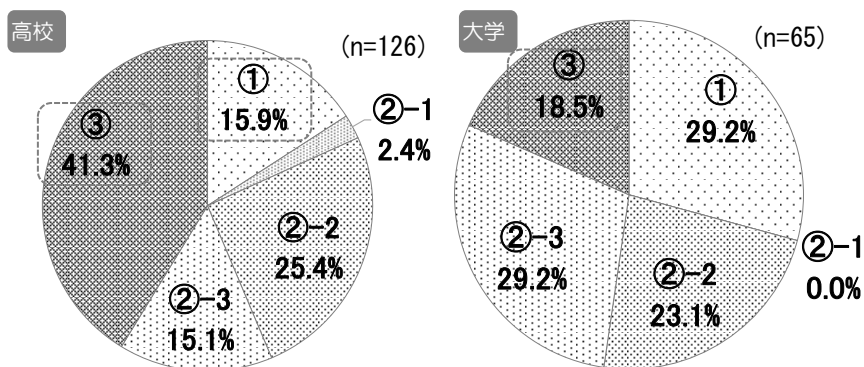


■傾向

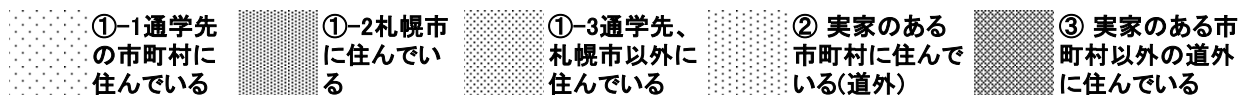
- ・高校生の約4割、大学生の約2割が「道外に住んでいる」と回答
- ・一方、高校生の15%が「実家のある市町村に住んでいる」と回答

■主な理由

- ・②-2：札幌市が道内で一番活気があるため
- ・②-3：北海道内であればこだわりのないため



区分3「実家が道外にある方」

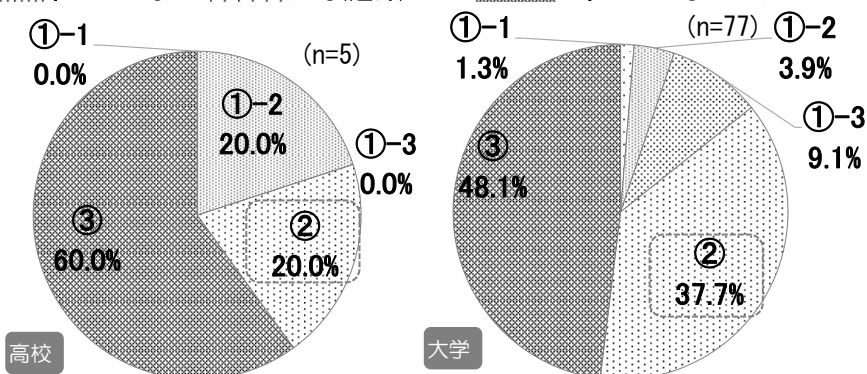


■傾向

- ・高校生の2割、大学生の4割弱が「道内に住んでいる」と回答

■主な理由

- ・①-3：北海道で働くために道内の大学に入学したため



問2. あなたが、今、学び、暮らしている地域で重要だと思うことを次の中から最大3つまで選んで○を付け、その理由を記載してください。(n=3,545)

【設問】

- 暮らし全般 物価・地価、住環境 など
- 地域社会・経済 まちに活気やにぎわいがあること、日常の買い物環境 など
- 環境 自然環境・資源のリサイクル など
- 教育 充実した教育を受けることができること など
- 医療 必要な医療をいつでも受けることができること など
- 子育て 安心して出産や子育てができること など
- 福祉 高齢者や障がいのある方が地域で生き生きと生活できる環境 など
- 仕事 働く場が確保されていること、希望する職業で働けること、労働環境 など
- 防災 地震や水害などへの防災対策 など
- 安全 犯罪・交通事故の心配がなく安心して生活できること など
- 交通・道路 通勤・通学や買い物への交通の便、行きたい場所への移動に困らないことなど
- 情報・デジタル インターネットの使用環境が整っていること、個人情報が守られていること など
- その他 具体的に記載してください

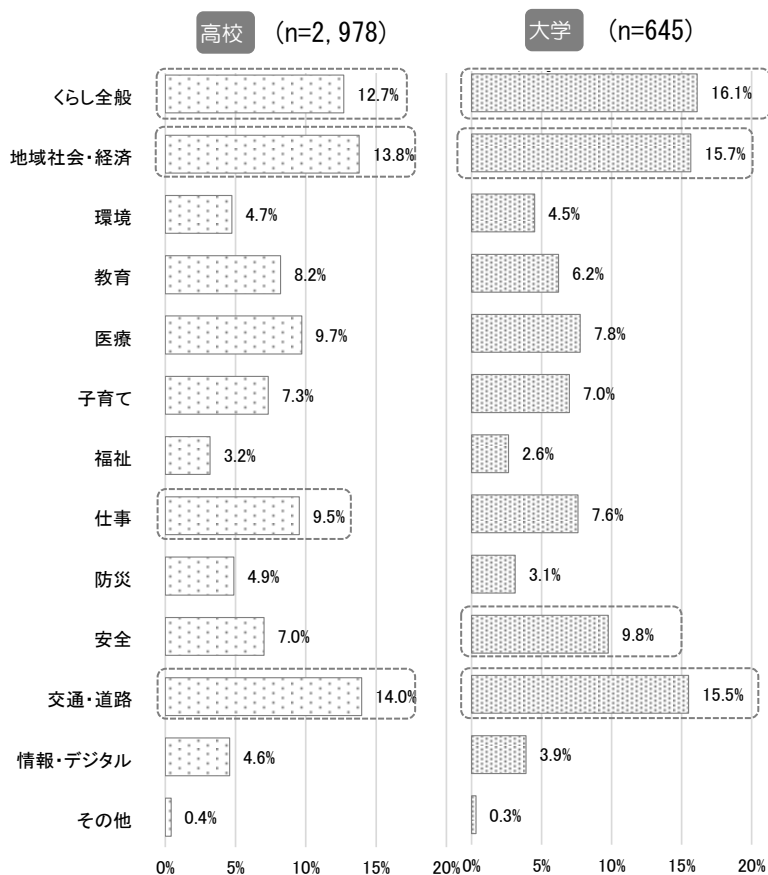
【区分毎】

■傾向

- ・高校生、大学生とも、**暮らし全般**、**地域社会・経済**、**交通・道路**の項目が大きい
- ・4番目に多い項目は、高校生が**医療**、大学生が**安全**となっている

■主な理由

- ・〔交通・道路〕公共交通がほとんどなく、移動が非常に不便であるため
- ・〔仕事〕働く場が確保されていると子育て環境も安定するため
- ・〔地域社会・経済〕人が集まるためには街に活気や賑わいが必要であるため
- ・〔教育〕教育機関がないと進学で今住んでいる市町村から出なければいけないため



※高校所在振興局別

■傾向

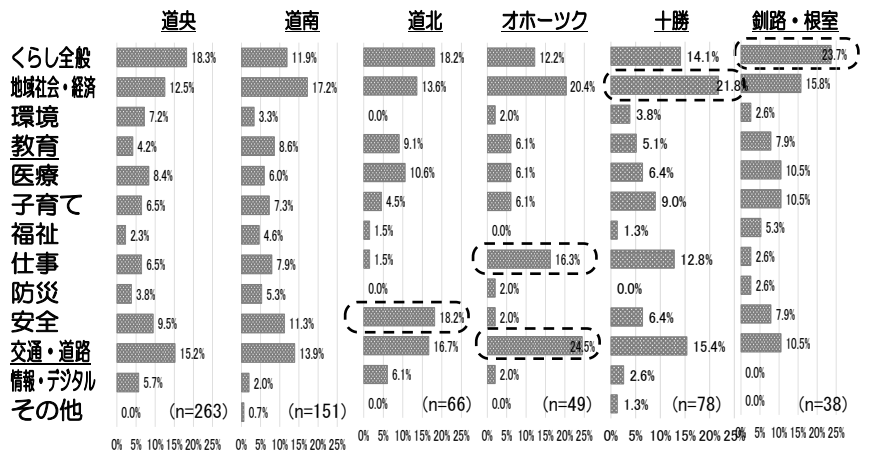
- ・多くの振興局で交通・道路が高くなっている（宗谷 19.6%，上川 19.5%，胆振 16.8%，根室 16.5%）
- ・渡島は教育（17.9%）、オホーツクは医療（16.2%）、宗谷は情報・デジタル（13.7%）が高い
- ・釧路、根室は他地域と比較して防災の割合が高くなっており（釧路 10.5%，根室 8.2%）、発生が切迫するとされている日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対策を意識している生徒が多いことがうかがえる



※大学所在圏域別

■傾向

- ・多くの圏域で暮らし全般、地域社会・経済、交通・道路が高くなっている
- ・道北は安全（18.2%）、オホーツクは仕事（16.3%）と交通・道路（24.5%）、十勝は地域社会・経済（21.8%）、釧路・根室は暮らし全般（23.7%）が高い



問3. 次の中から、あなたが、北海道の良いところ・優れているところ・価値（将来に引継いでいくべきもの）だと思うものを最大3つまで選んで○を付け、その理由を記載してください。(n=3,378)

【設問】

- 広大な土地 広々とした空間、大きな工場等を誘致できる など
- 冷涼な気候 本州等に比べ涼しい、良質な雪があり観光客等が集まる など
- 地理的特性 アジア等との近さ、本州等と距離があり同時被災リスクが低い など
- 自然環境 知床世界自然遺産、多くの自然公園 など
- 食料供給力 豊富な農水産物、食料自給率が高い など
- エネルギー・資源 太陽光・風力など再生可能エネルギーや水資源・森林資源が豊富 など
- 多様な地域 自然・歴史・文化・産業等が異なる地域が存在 など
- 歴史・文化 アイヌ文化、北海道・北東北の縄文遺跡群、まんが・アニメ、スポーツ など
- その他 具体的に記載してください

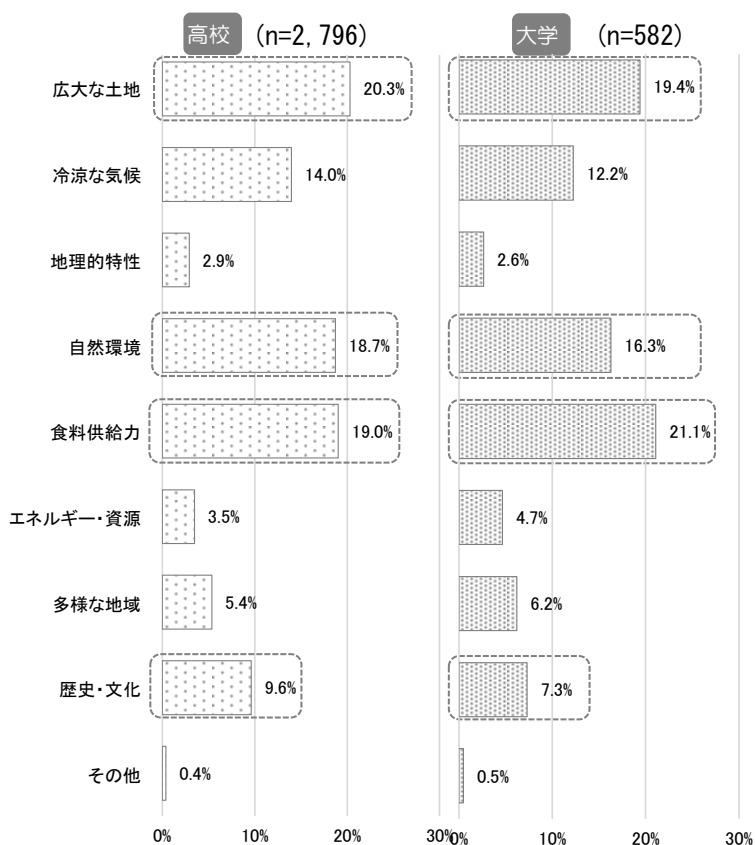
【区分毎】

■傾向

- ・高校生・大学生とも、**広大な土地**、**自然環境**、**食料供給力**を選択した割合が高い
- ・また、高校生・大学生とも、**歴史・文化**を選択した割合が比較的高い

■主な理由

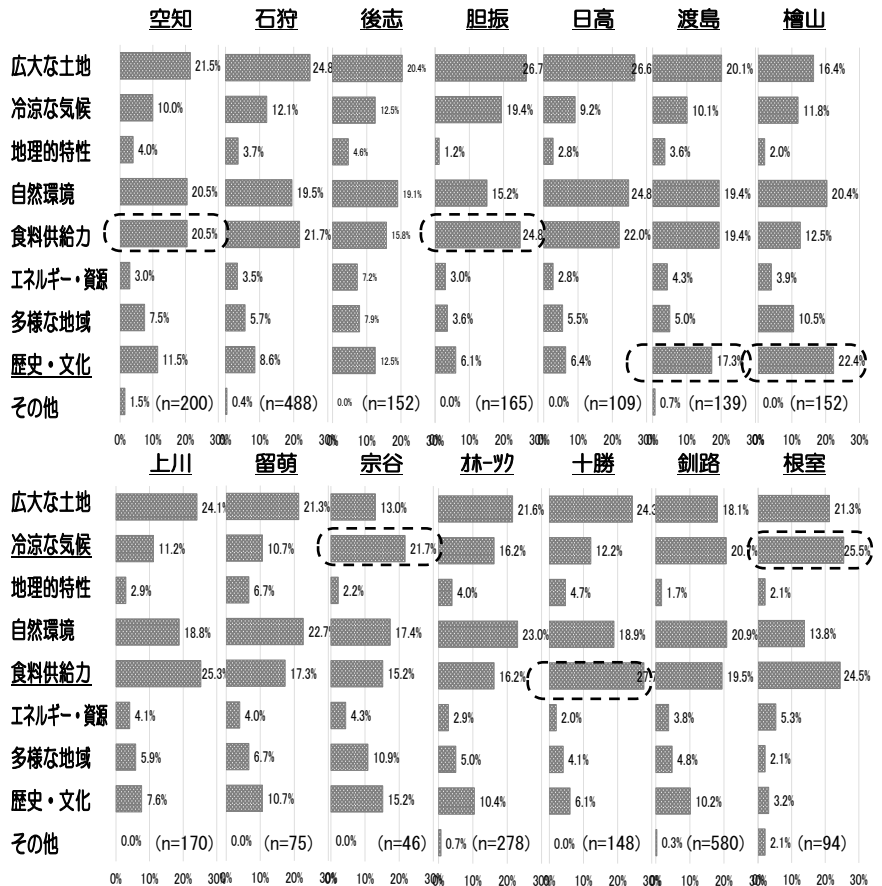
- ・〔食料供給力〕北海道は日本の食糧庫であり、ブランド力もあるため
- ・〔広大な土地〕広大な土地があるからこそ、再エネや企業誘致を進められるため
- ・〔自然環境〕自然環境は日本の他にはない良さがあり、素晴らしい観光資源であるため
- ・〔冷涼な気候〕最近の日本の夏の暑さを考えると北海道の冷涼な気候は長所であるため



※高校所在振興局別

■傾向

・宗谷、根室は冷涼な気候、空知、胆振、十勝は食料供給力、渡島、檜山は歴史・文化が高くなっており、各地域の特性が反映されている



※大学所在圏域別

■傾向

・オホーツクは自然環境、道央、道北、十勝、釧路・根室は食料供給力、道南は多様な地域が高くなっており、各地域の特性が反映されている

